

第2回放課後対策事業運営委員会 会議概要（議事録）

日 時 平成24年8月20日（月） 午前9時30分から午前11時30分

場 所 市役所分館 大会議室

出席者

委 員 増田 正夫(委員長)、北原 靖子、蓮見 元子、山宮 文昭、津嶋 みゆき、
深井 由香、東 由美、手塚 萌、中嶋 康貴、坂手 千代子、松本 守正、
屋田 治美(代理)、深谷 幸子、森井 貴美子、熊谷 ひろみ、鷲見 政夫

事務局 子ども支援課：相良、高橋

コーディネーター：古高、佐藤

事前説明

* 議事録作成のため、録音について

* 委員長あいさつ

* 資料確認

開 会

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

(1) 第一小学校の運営についての報告

(2) 根戸小学校の運営についての報告

(3) 第三小学校の運営についての報告

(4) 湖北台西小学校の運営についての報告

2. 学童保育室の運営についての報告

(1) 各学童保育室父母会と市担当課との懇談会について

(2) 夏休み中の学童保育イベントについて

(3) 除染対策について

(4) 夏休みお弁当ボランティアについて

(5) 中学生職場体験について

(6) お迎え遅れ者への対応について

3. あびっ子クラブにおける特別に配慮を必要な児童の受入れについて

4. 湖北台東小あびっ子クラブ設置に向けたこれまでの進捗状況

5. 災害救援ボランティアについて

6. 川村学園女子大学研究グループによる調査について

7. その他

次回以降の運営委員会開催の日程について

8. 閉 会

公開 / 非公開 公開

傍聴人 無

会議概要（要約）

【開 会】

- ・ 議事録作成のため、録音させていただきたいがよろしいか。[異論なし]
- ・ 傍聴要領に沿って、傍聴人の手続きを行わせていただきます。本日は、傍聴人の届け出はありませんでした。

1. あびっ子クラブ及び学童保育室の運営について

（委員長）現在、市内には四つのあびっ子クラブが設置されています。まずは、第一小学校の運営について、報告をお願いします。

（委 員）第一小学校の運営について、報告します。

今年の夏は第一小学校に限ったことではないと思いますが、除染工事のためプールの一般開放がありませんでした。また、体育館も耐震補強工事中のため使用できませんでした。夏休み一週目は、学校の学習会があったので児童の利用も多かったですが、二週目以降の利用は多すぎず少なすぎず落ち着きました。夏休みに入ってから、外出したくないほどとても暑かったので、「よくあびっ子クラブまで歩いて遊びにきてくれたね」とありがたく思いました。日中はとても暑く体育館も利用できないので、メインルームで過ごすことが多く、校庭利用も午前30分、午後30分のみとしました。午後の利用は3時30分以降としましたが、子ども達は外遊びを強く望み、少ない日陰を探して遊んでいました。虫捕り網なども用意しましたが、除染工事の影響か、あまり虫はいませんでした。家庭用の小さいプールを用意して遊んだりもしましたが、着替えがないことや子ども達が水に濡れることを嫌がり、思ったより参加者はいませんでした。毎年のことですが、夏休みのような長期休業中には、今まで登室していた子ども達が登室しなくなり、逆に夏休みのみ登室する子ども達がいるので、半分くらい子ども達が入れ替わる現象が今年も発生しました。夏休み中のチャレンジタイムについては、通常実施できない時間がかかるものと準備が大変なものを二つ実施しました。一つは3年生以上の児童を対象とした「水口ケットづくり」を実施しました。「水口ケット」は、準備に時間がかかることと子ども1人で作るのが難しいためスタッフを多めに配置する必要があるので、夏休み中の実施となりました。もう一つは低学年を対象とした「扇子づくり」を実施しました。こちらは、工作を担当しているサポーターさんが指導し、ほとんど

の参加者が1年生とその子のお兄ちゃんやお姉ちゃんが一緒に参加するという形になりました。どちらも13時30分頃から始めましたが、水 Rocket については、最後の Rocket を飛ばしたのが16時30分になってしまい、かなり時間がかかりました。その他のチャレンジタイムについては、サポーターさんの都合等もあり夏休み中は実施しませんでした。その分、室内で落ち着いてカプラやウノ等に熱中して遊んでいました。

また、高校生ボランティアの方が体験に来ました。さらに、今日から我孫子中学校2年生の職場体験が実施される予定です。

その他、通常あびっ子クラブを利用する際に支援の必要な子どもは、同伴者が必要としていますが、同伴者がいなくても利用できる日を設けます。8月24日の一日だけですが、その日はスタッフを多めに配置し、受け入れ準備を進めています。夏休みの活動については以上です。

(委員長) 一小的除染工事は、まだ終了していませんか。

(委員) 校庭は終了していますが、校舎周りの除染工事がまだ終わっていません。除染のため、駐車場が利用できなくなるとの話がありましたが、先週の金曜日、何本かの樹木剪定が行われていました。

(委員長) ただ今の一小的の報告について、何か質疑はありますか。

質疑等なし

(委員長) 質疑等がないようなので、続いて根戸小学校の報告をお願いします。

(委員) 根戸小について報告する前に、活動の中で作成した工作作品がありますので、皆さんご覧下さい。(順番に工作作品を回す。) まずは、学童保育室の様子からご報告させていただきます。8月1日時点での登録児童数は、143名です。内訳としては、根戸小学童保育室第一が62名、うち6名が夏休みのみの利用児童です。第二が39名、うち5名が夏休み生です。第三が42名でうち6名が夏休み生となり、合計143名中、夏休み生が17名となっています。根戸小学校の除染工事は思いのほか早く終わり、7月9日からは校庭が使用できるようになりました。校舎周りの除染工事も予定どおり進んでいましたが、部活動等はできないらしく、あびっ子クラブの利用が非常に多く感じました。6月平均は、一般登録児童28名、学童登録児童が31名、合計59名と60名近くの利用が続き、最も利用の多かった日で91名の利用がありました。学童保育室は大体93名の利用があり、約3分の1の学童登録児童があびっ子クラブを利用していたこととなります。7月に入り、校庭が使えるようになったので、一般登録児童の利用が増え、平均41名の利用があり、逆に学童登録児童の利用は減り、平均17名の利用でした。最も利用の多かった日で88名の利用がありました。夏休みに入り、お弁当を持って利用する子どもが増えて、最も多かった日で60名の児童がお弁当を持ってあびっ子クラブを利用しました。このよ

うなことから、根戸小学校においてあびっ子クラブがいかに定着してきたかが伺えます。8月は10日までの実績ですが、平均して52名のあびっ子クラブの利用がありました。最も多かった日で63名の利用、学童保育室は平均84名の登室があり、学童保育室登室児童の約25%があびっ子クラブを利用しています。昨年と比較して2.4倍の利用となっています。学童保育室の様子としては、工作週間を設定し3つの学童保育室で和紙を使ってマイうちわを作成しました。その他に水鉄砲を使って水遊びをしたり、今日からは映写機を借用して、一週間映写会を行っています。部屋の中を暗くして、いつも見ているDVDとは違う雰囲気味わってもらおうと思っています。あびっ子クラブについては、非常にチャレンジタイムが充実してきており、何人かのサポーターさんが知恵を出し合って、それぞれの得意分野を融合させたりしています。今回持ってきた作品もその一つで、消しゴムはんこ手芸のサポーターさんが協力して「お守り」を作りました。通常、一回のチャレンジタイムで作成するのは1つのものですが、お守り等は時間がかかってしまうこともあり、何回か通って作り上げる子どももいました。9月に入ると一年生もグランドゴルフやショートテニスへの参加が可能になるため、その前に中高学年で大会を催しました。賞状等を作成して渡しましたが、優勝や準優勝だけでなく、なるべく沢山の子ども達に賞状が行き渡るよう、様々な賞を用意しました。例えばショートテニスの場合、勝ち負けだけでなく、チャレンジタイムに参加した回数等も賞としました。一番参加した子は21回参加して賞状を受け取っていました。その他には、サポーターさんと協力して「はだしのゲン」の紙芝居全五冊を途中休憩も入れながら2時間かけて行いました。中には「こわい」と言って逃げ出してしまう子どももいましたが、原爆や戦争の話は大事なことなので、今後も続けて行こうと思います。先ほど一小的報告でもありましたが、支援を必要とする子の受け入れ日を明日に設定しています。なるべくたくさんの児童が利用できるように準備をしていますが、今のところ申し込みはありません。今後の課題として、一体的運営においての、子ども達の利用の仕方等、細部での課題があると思います。スタッフは大分慣れてきましたが、それでも考え方があびっ子寄りになってしまったり学童保育寄りになってしまうことがあるので、常に再確認をしておかなくてはならないと思います。以上です。

(委員長)ただ今の根戸小の報告について、何か質疑はありますか。

質疑等なし

(委員長)質疑等がないようなので、続いて三小の報告をお願いします。

(委員)最初にあびっ子クラブについて報告します。夏休み前の三小あびっ子クラブの利用としては、平均して60名前後の児童が利用していました。夏休みに入ってから、チャレンジタイムやイベントの内容によっても異なりますが、平均

して50名前後の児童が利用しています。少ない時は10名前後の日もありました。夏休み中、鳥の博物館のイベントと工作教室を開催しました。鳥の博物館のイベントは、事前参加申込型として60名の定員を設定したところ42名の申込みがあり、盛況でした。工作教室は材料費がかかってしまうので、一人30円程実費徴収しましたが9名の参加がありました。工作教室は、他の学童保育室でアシスタントとして勤務されている方がご夫婦で講師として来てくれました。体育館での活動として、ショートテニスがありますが、一年生は危険なため7月までは参加できないこととしていましたが、夏休みから一年生も参加できるようになり初めてラケットを握りしめました。まだ、ちゃんと打ち返すことは難しいようですが、とても楽しそうにボールを追いかけていました。除染工事についてですが、7月いっぱい校庭の除染工事が終了し、8月からは校庭が使用できるようになりました。久しぶりの校庭で子ども達も喜ぶと思いましたが、暑すぎて30分も遊べばみんな汗びしょりになるので、それほど遊べませんでした。去年まではプールに入り、あびっ子で遊んでまたプールに入るといった行動が多々見られましたが、今年は除染工事によりプールの一般開放がなかったので、その影響か利用人数の大幅な増加はありませんでした。また、一小同様、ボランティアとして川村学園の学生さんもお手伝いに来ていただきましたので、若いお姉さんが増えて子ども達は大はしゃぎでした。三小においても中学生の職場体験が今日から3日間あります。21名の中学生を3日間で7人ずつに分け、更に学童とあびっ子クラブとで半分ずつグループ分けして受け入れます。学童保育室についてですが、学童は夏休み生が入室し100名を越す登録児童が在室しています。連日平均して75名から85名の登室があります。校庭が使用できない時は、近くの公園やあびっ子クラブに来て遊んだりしています。その他Tシャツ染めや観劇等を夏休みにしかできない企画を開催しています。以上です。

(委員長)ただ今の三小の報告について、何か質疑はありますか。

質疑等なし

(委員長)質疑等がないようなので、続いて湖北台西小学校の報告をお願いします。

(委員)前回の運営委員会時には、オープン準備を進めている旨の報告をさせていただきました。5月には1・2年生を対象に利用の仕方の予行練習をしました。各クラスの担任の先生と一緒に、お昼休みを利用して実施しました。一連の利用の仕方に加え、参加カードの使い方など保護者のハンコがないと利用できない旨を徹底してお話ししました。子ども達も良く話を聞いてくれました。今まで子ども達はあびっ子クラブのメインルームを遠くから見ているだけでしたが、予行練習を行いメインルームに入ることによって、子ども達にも実感が湧いたのか子ども達から「必ず行くからね」との声も聞くことができました。そして、

オープン当日には108名の子ども達が来てくれました。オープン当日は金曜日だったこともあり、子ども達の下校時刻もバラバラだったので受付等はスムーズにできました。参加カードを持参した子ども達には、あびっ子クラブで確認の印を付けて返却しました。オープン後3週間は、他の学童保育室とあびっ子クラブのスタッフが応援に来てくれましたので、たくさんのスタッフに見守られながら子ども達は楽しめたのではないかと思います。サポーターさんも初日から駆けつけてくれました。6月中は平均70名前後の利用があり、トランプやウノ、オセロ等をして過ごしていました。私たちスタッフが驚いたのが「先生、宿題やっていい？」と聞いてくる子どもが多く、隣の地域交流教室が借用できる日は、そこで子ども達は宿題をしています。その他にもメインルームで宿題をしている子ども達もいます。高学年の子ども達は部活動があるので、長時間あびっ子クラブで遊ぶことはできませんが、それでも閉室30分前にきて、遊んでいく子もいます。子ども達の中には、友達の輪の中に入れていない子どももいて、サポーターさんやスタッフが声をかけて、輪の中で遊べるようにしています。また、6月中はあびっ子クラブのルールや利用方法を覚えてもらうことに力を入れました。湖北台西小には、とても涼しい避暑地のような中庭が丁度あびっ子クラブの目の前にあります。そのため、校庭の除染中でもブランコ等で遊ぶことが出来たので、子ども達にとっては良い環境だったと思います。7月になると子ども達も落ち着き利用方法も様々となりました。毎日来る子どもや曜日指定で遊びにくる子ども等に分かれてきました。子ども達が落ち着いてきたことから、新しいおもちゃとして「人生ゲーム」を出して遊び始めました。このゲームは多人数で遊べることもあり盛り上がり遊んでいます。夏休みになると、今まで来ていた子ども達に加え、夏休みに入ってから始めてくる子ども達も増えました。特に高学年が多かったです。その他、部活が終わってそのまま遊びにくる子ども、比較的多かったのが、午前中に登室して、お昼に一度帰宅して再びあびっ子クラブに来る子どもです。サポーターさんの中には器用な方がいて、牛乳パックを使って電車等を作ってくれます。このサポーターさんは、工作の準備として、牛乳パックを自分で集めて、ある程度子ども達作りやすい形に成型してから持ってきてくれています。私たちスタッフも本当に頭の下がる思いです。他にはすずらんテープを三つ編みにしてカチューシャを作っています。最近のサッカー人気もあり、男女ともに人気があります。湖北台西小のサポーターさんは地元の方が多く、最初は3名しかいませんでしたが、今では高校生1名を含めて10名になりました。子ども達にとっては、おじいちゃんおばあちゃん世代の方が多いたのですが、サポーターさん達がとても優しく接してくれているので、子ども達もとても喜んでいきます。現在、チャレンジタイムは設けられていませんが、工作の得意なサポーターさんが毎週木曜日に来てくれるので、必然的に木曜日は子ども達の人数が多くなっています。高校生のサポーターさんが来てくれた時は、いつもと違うサポータ

ーさんの雰囲気子ども達の方がどう接していいのか迷っていましたが。あびっ子クラブの登録児童数も最初は237名でしたが、今では254名に増えました。学童保育室については、夏休み生が増え現在37名の児童が在室しています。学童の子ども達は、必ず学童に寄ってからあびっ子クラブに来ることとしています。これは、学童をお休みした時も同じです。学童をお休みしてあびっ子クラブに行く時は、学童保育室で「今日、学童お休みします」ということをスタッフが確認して、学童でスタッフのハンコをもらってからあびっ子クラブに遊びに来ます。ですから、学童保育室の子ども達は、家庭用と学童用のカード2枚を持っています。学童用のカードは学童に置いたままとしています。最初は保護者の方たちも戸惑っていましたが、今では大分定着してきました。学童の子ども達の中には、学童保育室とあびっ子クラブを行ったり来たりする子もいますので、その都度学童でチェックをして印をしますが、四回・五回とチェックを受けている子どももいました。学童の子ども達も、今まで同じ学童の子どもとだけしか遊ぶことが出来ませんでした。一般登録の子と約束してあびっ子クラブで待ち合わせる等して遊んでいます。また、支援の必要な子どもの受け入れを根戸小同様、明日21日設定しています。今のところ問い合わせ等はありませんが、スタッフを増員して受け入れ準備をしています。以上です。

(委員長)ただ今の湖北台西小の報告について、何か質疑はありますか。

質疑等なし

(委員長)質疑がないようなので、私からお伺いします。6月にオープンした湖北台西小あびっ子クラブについて、施設的な面で何か不具合等はありませんか。

(委員)今のところ、特に不便を感じることはありません。

(委員長)高校生のサポーターがいるとのことですが、これは夏休み中だけの活動ですか。

(委員)夏休みのみの活動です。この高校生サポーターは、高校三年生の受験生なのですが、教育関係を受験するため、前もって体験しておきたいとのことから、個人的に問い合わせがあり登録されました。

(委員長)湖北台西小PTAの方、実際にあびっ子クラブがオープンしていかがですか。

(委員)私の子どもは、オープン前からとても楽しみだったらしく、まだかまだかと楽しみに待っていたようです。オープンしてからは毎日のように利用させていただきました。夏休み中は、あまりお世話にならなかったのですが、夏休みに入る前の短縮日课时にはお弁当を持って利用させていただきました。すずらんテープのカチューシャのおかげで、三つ編みを覚えたらしく、自分の髪の毛でも三つ編みができるようになったみたいです。保護者としても、安心して子ども達が遊べる場所ができ、とてもうれしく思っています。子どもからも「今日は何を作った、何をやった」等の話が聞けるので、家族の会話が弾むようになり

ました。

(委員長) 湖北台西小学校の校長先生はいかがですか。

(委員) 実際に担任の先生等に話を聞くと、子ども達が非常に生き生きしてあびっ子クラブの話をしてくるとのことでした。湖北台西小学校の校舎周りの除染工事も7月28日で終了し、中庭もあることから非常に恵まれた環境ではあるのかと思います。

2. 学童保育室の運営についての報告

(1) 各学童保育室父母会と市担当課との懇談会について

(委員長) それでは、次の議題に進みたいと思います。次は「学童保育室の運営についての報告」です。(1)から(6)までありますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局) まず、(1)各学童保育室父母会と市担当課との懇談会について報告します。7月22日の日曜日に新木近隣センターホールにおいて、各父母会の代表者の方々と子ども支援課で懇談会を実施しました。これは毎年行われており、主に各保育室からの要望を伺い、子ども支援課がそれらに答えるという形式になっています。また、父母会全体としての要望書も提出されました。この要望書については、市長決裁後に回答することとしています。各保育室から要望として多かったのは、学童保育室開室時間の繰り上げです。現在学校休業日等の開室時間を午前7時45分としています。これを15分早めて7時30分にして欲しいという要望が多かったです。施設面等では、空気清浄機の設置や窓ガラスの飛散防止フィルム設置、蛍光灯飛散防止フィルムやカバーの設置等が多く見受けられました。子ども支援課では要望を精査し、今年度対応出来るものは対応し、対応が難しいものは見積もり書等を取得して次年度以降の対応を目指し、予算要求していこうと考えています。続いて、(2)夏休み中の学童保育イベントについて報告します。夏休み中は一日保育となり、保育時間も10時間を超えることがあります。外遊びや宿題をして過ごすほか、保育室によっては独自にイベント等を企画しています。子ども支援課としてもイベントを企画・実施しました。7月24日と25日に「ドラマセラピー」を一小、湖北台西小、新木小の3学童保育室で実施しました。イギリスから講師としてブライアン氏を招き、子ども達と一緒に絵を描いたり、お話をしたりして楽しみました。これは昨年も実施して、非常に好評だったイベントです。他に「鳥の博物館出前講座」を7月24日から7月31日の4日間、8保育室(根戸小第二、並木小、湖北小、布佐小、四小第一、高野山小第一、一小学童保育室、三小あびっ子)で行いました。今年は、鳥の羽根についての講座を行いました。鳥の羽が非常に軽いことや撥水効果に優れて汚れに強いこと、資料2枚目の写真にあるのは、鳥の羽根が左右非対称であり、左右対称の羽根と比べてどちらが良く飛べるの

かを実際に子ども達に体験してもらっている写真です。鳥の羽根に見立てた大きな羽根を持って、回転台の上に立ち、羽根をはばたかせると、左右対称の羽根より左右非対称の羽根の方が激しく回転します。これを、ほぼ参加者全員が体験することができたので、子ども達は大喜びでした。また、学童保育室のイベントではないのですが、先ほど報告いたしました全学童保育室の父母有志が、8月25日(土)に開催される「あびこカップまつり」の河童音頭大行進に参加されるとのことですのでご報告します。毎年行っていた「子どもの放課後を考える集い」というイベントが、今年度から「エンジョイ!学童キッズ-我孫子の学童保育を考える会」と名前を変えて、学童保育をより多くの人に知ってもらうことを目的として、参加者みんなでお揃いのTシャツを着て参加することです。続いて、(3)除染対策について、報告します。学童保育室の除染対策については、来月9月に高野山小学童保育室の中庭の除染工事を行う予定です。高野山小学童保育室の除染は、当初8月中に実施する予定でしたが、夏休み中は夏休みだけ利用する児童もいるため、通常時より児童数が多くなること、また、夏休み中に学校の体育館の耐震補強工事と校舎周りの除染を実施することとなり、子ども達の遊ぶ場所がなくなってしまうこと等を踏まえ、一ヶ月延ばして9月に実施することとしました。今月末に業者が決定する予定です。その他の保育室については、定期的な測定を実施してホームページ等で公表しています。以上です。

(事務局)では引き続き、(4)から(6)について報告します。まず、(4)夏休みお弁当ボランティアについてです。お手元の資料の中にチラシを配布してありますが、「我孫子市民活動ネットワーク」という様々なNPO団体等で構成されているネットワークがあります。その方達と懇談を設ける機会があり、話の中で「私たちが市に対してなにか協力できることはないか。」とのご提案をいただきました。そこで、毎年夏休み等の長期休業になると保護者の方、特に疾病や父子家庭等の保護者の方から「夏休み中はお弁当を作ることが難しいので、学童保育室を利用しない」との声が届いていますので、「そのような保護者に代わってボランティアの方々がお弁当を作ってくれれば助かりますが、いかがでしょうか。」と提案させていただきました。するとネットワークの中から、介護施設や老人世帯にお弁当を作って届けている方たちが「お弁当を作ることができるのが3人しかいないが、試しに何とかやってみたい。」と手を挙げてくれました。8月の6・8・10日の3日間ではありますが、試行的に父子家庭等の条件を付して申込を受け付けました。すると、条件に当てはまらない一般の方からの申込みが多数ありました。しかし、今回その方達は除外して、6日2食、8日4食、10日3食と非常に少ない申込ではありましたが、お弁当を作って届けていただきました。子ども達から初日のお弁当の感想を伺い、それを8日に反映してもらい、8日の感想を10日に反映してもらいました。初日のお弁当は、やはり普段対象としているお年寄り向けの煮物や野菜等が多かったようで、小

学生の子ども達には少し不評でした。その結果をボランティアの方々に伝えたところ、8日のお弁当には揚げ物やおにぎり等、子ども達が食べやすいものを入れてくれました。しかし、8日のお弁当の感想を子ども達に聞くと「唐揚げが入っていない」と手厳しい意見がありましたので、10日のお弁当には唐揚げやタコさんウィンナー等を詰めたところ、子ども達は全て完食したとの報告がありました。今回は試験的に3日間の実施でしたが、今後ボランティアさんと協議し、冬休みや来年の夏休み等にも実施出来ればと考えています。続いて(5)中学生職場体験についてです。先ほどコーディネーターの報告にありましたとおり、我孫子中学校の生徒を本日(20日)から3日間、職場体験として一小と三小で受け入れを開始します。働く日にちが限られていることや部活動など最近の中学生はとても多忙の中での職場体験ではありますが、自分の母校での仕事であること、今まで遊んでいた場所に仕事として携わることから、様々な事を学べると考えています。ですから、あびっ子クラブでは毎年積極的に職場体験の中学生を受け入れしています。この職場体験をきっかけにサポーターとして登録してくれる中学生がでてくれるよう、今後も積極的に受け入れしていきたいと考えています。続いて(6)お迎え遅れ者への対応についてです。現在、学童保育室は夜7時まで開室していますが、お迎え遅れが後を絶ちません。平成21年から実態調査を実施し、毎日お迎えにきた保護者に、名前と迎えに来た時間を書いてもらうようにしています。調査の結果、お迎え遅れがひどい保護者の方には注意文書を送付したり、子ども支援課まで来ていただいて注意を促したりして、お迎え遅れ対策をしてきました。しかし、毎年入室児童が入れ替わることや長期休業のみ利用する方等が多く、保育園とは異なり、人の出入りがとても激しいため、お迎え遅れはなかなか減りません。そこで、学童保育の保護者の方には昨年からお伝えしていますが、今年は、お迎え遅れの方については、超過の保育料を設定する方向で動いています。9月16日の広報に掲載予定ですが、パブリックコメントを実施し皆様の意見を伺いたいと考えています。この超過保育料の設定については、幾度となく保護者の方とも協議し、逆に保護者の方からも徴収した方が良いとの意見が出ています。今年度中に条例改正等を進め、来年4月からの実施を考えています。進捗状況や結果につきましては、今後の運営委員会でご報告させていただきます。以上です。

(委員長)ただ今の報告について、何か質疑はありますか。

質疑等なし

(委員長)質疑がないようなので、私からお伺いします。(3)の除染対策について、学校の敷地から離れた保育室として、高野山小学童保育室の除染工事を予定しているとのことですが、同じような保育室として根戸小学童保育室の除染対策はどのように考えていますか。

- (事務局) 根戸小学童保育室については、他の保育室と異なり、地面が土ではなくアスファルト舗装されています。今まで、試験的に様々な除染方法を試みましたが、決定的な解決策となっていないのが現状です。根戸小学童保育室の除染方法については、担当課だけで検討するのではなく、放射能対策室からの情報提供等を受け実施しています。現在、新たな方法で除染を実施する予定はありません。
- (委員長) ただ今、事務局からの報告のとおり、根戸小学童保育室の周りは、アスファルト舗装されており決定的な解決策が見出せないでいます。しかし、根戸デイサービス等の駐車場が隣接されており、子ども達が活動する場所とは言い難いと思いますが、今後、新たな方法、確実な方法があれば引き続き除染に努めていただきたいと思います。報告の中に、父母の代表達と市との懇談会やお迎え遅れの対応の報告がありましたが、学童保育の父母の代表の方からご意見はありますか。
- (委員) お迎え遅れについて、懇談会や各父母会からの要望の中でも「罰金を取った方が良い」との意見が出されました。保護者としても大きな問題として捉えています。今回、パブリックコメントの実施等、対応策が目に見えてきているので非常に良いことだと思います。
- (委員長) (2) の夏休み中の学童保育イベントについて、「遊びの達人」等を所管していた教育委員会生涯学習課から何かご意見はありませんか。
- (委員) 行政として、直接的な協力や援助は難しいかもしれませんが、同じ教育委員会の文化・スポーツ課であれば、何らかの形で協力できるかもしれません。
- (委員) 夏休み中のイベントということで、当初、青少年相談員で毎年支部ごとに学校を対象としてイベントを開催していましたが、今年は除染作業により校庭が使用できないことが多く、秋口や冬場に日にちがずれ込んでいます。今後の開催となりますので、よろしければあびっ子クラブや学童保育室も活用していただければと思います。
- (委員長) 他に意見等はないでしょうか。なければ次の議題に進みます。

3. あびっ子クラブにおける特別に配慮を必要な児童の受入れについて

- (委員長) 続いての議題は、「あびっ子クラブにおける特別に配慮を必要な児童の受入れについて」です。事務局から説明をお願いします。
- (事務局) お手元の資料にあります「あびっ子クラブだより」をご覧ください。昨年より当運営委員会で検討してきました、一人であびっ子クラブを利用できない児童への対応についてです。先ほどコーディネーターの報告にありましたが、夏休みに入り、7月から8月前半は普段あびっ子クラブを利用していない子ども達も利用しており、非常に子ども達が多い状況です。そこで、お盆明けを中心に各あびっ子クラブで支援の必要な児童を受け入れる日を一日ずつ設定し、スタッフやサポーターさんを多めに配置し、その日はひとりでもあびっ子クラブを

利用でき、他のお友達と楽しく過ごせるようコーディネーターと協議して受け入れ準備をしています。しかし、実際にどの程度の利用があるのか、どのような支援が必要なのか、現場の人数配置にも関わってきますので、事前に「あびっ子クラブだより」でお知らせすることとしました。どのあびっ子クラブにおいても受け入れ設定した日にちが今日以降ですので、結果や状況は運営委員会で報告し、今後の対応についても検討していきます。社会福祉協議会においても、この事業は気にしていただいております、ボランティアさんの派遣など、出来ることがあれば協力すると言っていたと思いますが、まずは試験的ということで、今回はあびっ子クラブにスタッフのみで対応することとします。以上です。

(委員長) このお知らせ(あびっ子クラブだより)はどのように配布しているのですか。

(事務局) あびっ子クラブだよりは、毎月学校を通じて全児童に配布しています。今回のお知らせについても同様です。

(委員長) サポーター代表者の方、いかがですか。

(委員) 今回、試験的ということですが、試してみる価値はあると思います。支援が必要な子ども達にとって、良いきっかけになればと思います。

(委員長) 今回、一日受け入れをしてみて、特に問題がなければ継続して受け入れる(支援の必要な児童をサポートする方がいなくてもあびっ子クラブを利用できる)ようになるのですか。

(事務局) 今回の受け入れ日はスタッフやサポーターを多めに配置していることから、常にこの体制を保つことは不可能と考えています。今回の結果を見て、他の日、例えば長期休業以外の通常日に受け入れ日を設定する等、まずは子どもの状況を観察したいと考えています。支援学級に在籍している児童でも、支援なしであびっ子クラブを利用できる子どももいます。今は支援が必要でも、回数を重ねていく毎に(あびっ子クラブに関しては)支援の必要がなくなり1人で利用できる子どももいます。保護者の方とも協議し、ひとりでも多くの子ども達が利用できるように検討していきたいと考えています。

(委員長) 他に意見等はないでしょうか。なければ次の議題に進みます。

4. 湖北台東小あびっ子クラブ設置に向けたこれまでの進捗状況

(委員長) 続いての議題は、「湖北台東小あびっ子クラブ設置に向けたこれまでの進捗状況」です。事務局から説明をお願いします。

(事務局) 以前の運営会議において、5校目のあびっ子クラブを湖北台東小学校に設置するとご報告させていただきました。これまでの進捗状況を報告します。今年度6月12日に湖北台東小学校の校長先生と今後のスケジュール確認のため、現地にてお話をさせていただきました。昨年「5校目のあびっ子クラブは湖北台東小でお願いしたい」と教育委員会を含めて協議し、併せてメインルーム

となるお部屋についても協議してきました。その結果、現在荷物の置いてある教室が3階にあり、その教室であれば普通教室への影響もないであろうという学校からの提案を受け、メインルームは2階ではなく3階に設置することとしました。湖北台東小学校には、皆様ご存じのとおり「教育研究所」が設置されており、教育研究所が設置されている棟には、あまり子ども達を近づけないで欲しいとのご希望もあったので、教育研究所とは真反対の教室をいただきました。現在、メインルームとなる教室は、増築工事をしている第二小学校の荷物が置かれているため、増築工事終了後に荷物を第二小学校へ戻した後、空調機やタイルカーペット設置等の工事に取り掛かりたいと考えています。7月には、湖北台西小あびっ子クラブ設置時と同様に湖北台地区社会福祉協議会と民生委員児童委員協議会にお邪魔させていただき、今までの経過や現況報告、事業概要をお話しさせていただきました。民生委員の中には非常に協力的な方が多く、説明後すぐに湖北台西小あびっ子クラブに足を運び、その場でサポーターの登録をし、翌日から活動してくださった方もいました。また、児童登校時に横断歩道に立っているボランティアの方にサポーターとして登録していただいたところ、子ども達から「あの人、知ってる」と声を掛けられた等、非常に子ども達にも慣れた方があびっ子クラブにも携わっていただけることで、子ども達も安心感が増すのではないかと考えます。今後のお話を伺ったところ、湖北台東小あびっ子クラブが設置された際には、湖北台西小の近くにお住まいの方は、湖北台西小あびっ子クラブのサポーターとして、湖北台東小の近くにお住まいの方は、湖北台東小あびっ子クラブのサポーターとして、それぞれ活動していただけるとのことでした。また、両方で活動できるという方もいらっしゃいました。2つの小学校区にサポーターさんがまたがることによって、湖北台西小あびっ子クラブと湖北台東小あびっ子クラブがより一層連携できればと思います。以上です。

- (委員長) ただ今の報告について、学童保育室の代表者の方は何かご意見等はありませんか。
- (委員) 学童保育室に子どもを預けている保護者としては、子どもの安全確保が第一だと考えます。今のお話を聞く限りでは不安要素はないと感じました。
- (委員長) P T A代表の方、いかがですか。
- (委員) 地域の方々が協力的だということは、とても心強いと思います。先生やスタッフ等学校内部の方々ももちろん大事ですが、学校の外にも子ども達を見守ってくれる目があるということは、保護者の安心にもつながると思います。
- (委員長) 第三小学校の校長先生はいかがですか。
- (委員) 湖北台西小学校と湖北台東小学校は、以前から学校支援事業が行われている地域なので、非常にしっかりしたバックボーンのある地域だと思います。私たち教師とは異なった目で携わることによって、地域の方々が関わりやすいあびっ子クラブができるのではないかと思います。

- (委員長) 民生委員の方にお伺いします。先ほど事務局からの報告にありましたが、民生委員の方の今後の関わり方について、どのようにお考えですか。
- (委員) 民生委員は、それぞれが担う地域は分かれています。それに固執せずそれぞれのあびっ子クラブを見て、経験して、それぞれのあびっ子クラブで活かさればと考えています。
- (委員長) 湖北台東小あびっ子クラブは、来年6月にオープン予定です。進捗状況等は運営委員会にて報告していきませんが、別途個別にお願いすること等もあると思いますので、その際はご協力をお願いします。それでは次の議題に移らせていただきます。

5. 災害救援ボランティアについて

- (委員長) 続いて、「災害救援ボランティアについて」です。事務局からの説明をお願いします。
- (事務局) 8月3日(金)に教育委員会会議室において学校支援ボランティア事業に携わるコーディネーターの研修会が開催されました。この研修は、教育委員会が主催している研修で、市内小中学校のコーディネーターや各学校の校長先生もしくは教頭先生が参加しています。その冒頭にお時間をいただき、子ども支援課担当職員が災害救援ボランティアについて説明をしました。その際に配布した資料と同じものを本日の資料としてお配りしています。説明した内容は、災害救援ボランティアを募るまでに至った経緯や今まで幾つかの小学校と協議した結果、独自に募集するのではなく学校と合わせて募集すること、今後は各小学校に伺って詳細な打ち合わせを予定している旨を説明しました。現在、子ども支援課では各小学校に伺う日程調整をしていますので、今後の運営委員会で随時ご報告させていただきます。以上です。
- (委員長) ただ今の事務局からの報告について、何か質疑や意見はありますか。

質疑等なし

- (委員長) 質疑等がないようなので、次の議題に移りたいと思います。

6. 川村学園女子大学研究グループによる調査について

- (委員長) 続いての議題は、「川村学園女子大学研究グループによる調査について」です。報告をお願いします。
- (委員) 本日、別途資料として配布していますが、川村学園の放課後子ども研究会では、子ども支援課の協力を得てあびっ子クラブ、学童保育室、小学校においてアンケート等を実施し研究を進めております。あびっ子クラブができる前の6年前

から様々な研究、アンケートを実施しており、子ども達が放課後どのように過ごしているのか、また、どのように過ごしたいのか、それらを保護者の方がどの程度把握しているのか等を調査してきました。今までの話を聞きますと、我孫子市では、市全体で放課後対策事業に取り組んでおられるので、我孫子市の子ども達は恵まれているな、と感じました。学童保育室やあびっ子クラブの運営は既にしっかりとされていますが、このようなアンケート結果や子どもや父母の意見を取り入れることによって、より一層良くなっていくのではないかと考えています。今回実施を予定している調査の中心となっている委員から詳細を説明します。

- (委員) まだ、まとまっていないので現時点での報告となりますのでご了承ください。今回のアンケート実施の趣旨は、低学年、特に1年生から3年生の子ども達が放課後どのように過ごしているのかを継続的に知るために実施しました。学童保育室しかなかった小学校にあびっ子クラブが設置され、8割以上の子ども達が登録しているので、かなり状況の変化が見られます。また、あびっ子クラブがある小学校とない小学校での違いなども見られますので、こちらを併せて報告します。子ども向けのアンケートは全てひらがなで作成しており、小学校の協力により、全てホームルーム時に記入してもらいました。第一小学校、第三小学校、湖北台西小学校、根戸小学校、新木小学校の一昨年1年生だった児童を対象に同じ内容のアンケートを毎年行い、三年間アンケートを行いました。ですから、同じ児童が一年生、二年生、三年生と学年が変わることによって見られる変化もあります。また、その児童の保護者に対しても同様の形式でアンケートを実施しています。それぞれのアンケートにはナンバリングがされており、子ども達のアンケートと保護者のアンケートを照らし合わせることによって、子どもと親の違いのほか、あびっ子クラブができる前とできた後の違いや小学校及び地域での違い等、様々な点が見えてきます。子どものアンケートは1番から14番までの問があり、すべて「はい」か「いいえ」で答えられるようにしています。このアンケートの内容は、以前「こども未来財団」から補助金を受け、関係者(スタッフ・保護者・学校の先生等)にヒアリングを行い、放課後の子ども達にどのように過ごしてほしいのか等を調査し、その調査結果を踏まえて作成しました。質問の中には、全て「はい」と答えるのではなく「いいえ」と答えた方が望ましい質問もあります。例えば2番の「ほうかご ひとりであそびますか」については、出来れば友達と一緒に遊んだ方が望ましいので「いいえ」が望ましい、4番の「ほうかご いくところがなくて いえであそびますか」は、遊ぶ場所がないということで「いいえ」が望ましい等です。14項目の質問のうち実態調査的な質問は12項目あり、そのうち「いいえ」が望ましい質問が4項目含まれています。残りの2項目は子ども達の希望を聞いており、実態調査12項目のうち4項目は「遊ぶ場所」について質問しています。保護者向けアンケートは、もう少し細かい部分まで記入していただく内

容になっています。1番から4番は、学童やあびっ子クラブへの登録の有無を質問しています。5番は「平日のお子さんの放課後の過ごし方」について質問しています。これは、一部子ども向けのアンケートと内容が重複している部分があります。6番は「仲間づくり」について質問しています。7番と8番については、子ども達の環境について質問しています。9番は放課後の活動場所について質問しています。この質問は、子ども向けアンケートでも同内容の質問をしています。10番以降は、保護者の意識や希望を伺う質問となっています。これらのアンケートを、今年で通算3年目になりしたが7月と8月で回収をしました。まだ、回収したアンケートを全てデータ化したわけではないので、取り急ぎ子ども向けアンケートの数値のみの報告となります。このアンケート結果は同じ子どもが一年時から三年時まで回答してくれた児童のみを抽出していますので、かなり精度の増したアンケート結果になっていると思います。この結果から見ると、学年や地域によって子どもの受け取り方や感じ方が変わってくるのが分かります。例えば、11番の「こまったとき たすけてくれる おとながいますか」という質問に対して、第一小学校の3年生時点では「はい」が40名、「いいえ」が30名です。新木小学校においての同位置の数字を見ると「はい」が43名、「いいえ」が33名となっています。この二つの小学校においては、あびっ子クラブがある小学校とない小学校という大きな違いがあるのに対して、この質問では大きな違いが見られない、あびっ子クラブの有無はあまり関係ないということが分かります。ただし、地域性等も考慮しなければならぬので、まだ結論段階とは言えません。もう一枚のアンケート結果を棒グラフ状にしたものがあります。これは学年別質問別に「はい」と回答した件数を子どもと保護者で比較したものです。記載されている数字は全体に対するパーセンテージとなっています。この結果を見ると、子どもと保護者で違いが見えるところが何カ所かあります。例えば、3番の質問「他の学年の子どもと一緒に過ごす」において、一年生の実態は36%に対し、59%の保護者が「他の学年の子どもと一緒に過ごしている」と思っています。二年生になって、子どもの実態は42%と少し増加しましたが、それでも保護者は59%とっており、10%以上の差があります。他に子どもの実態と保護者の思いにズレが生じている質問として、6番「鬼ごっこやかけっこなどの外遊びをする」という質問も10%以上の差があります。他にも11番「大きな怪我や病気になったときに対処する大人がいる」という質問です。これは子ども向けアンケートでは「こまったとき たすけてくれる おとながいますか」と質問しています。こちらの質問についても、大人は「誰かしらがいるだろう」と思っているのに対し、子どもの方は半数の50%は超えています。最後の質問12番の「子どもが怖い思いをすることがある」については、これは、逆転質問ですので「いいえ」、つまり、「はい」の数値が低い方が望ましいのですが、90%以上の保護者が「怖い思いをすることがあるだろう」と

思っているのに対し、子どもの方は70%程度となっています。数値自体は高数値を示しているのですが、一概には言えませんが、保護者の方が心配症とも受け取ることができます。逆に子ども達の方が高く見積もっている質問もあります。8番の質問「どこの場所にいくか選択肢がたくさんある」、子ども達の居場所がたくさんある、という質問については、50%から60%の子どもが「たくさんある」と思っているのに対し、保護者は40%に届かない数値となっており、「そんなに居場所はない」と思っていることがわかります。このように、「何故同じ質問に対してズレが生じてくるのか」ということは、今後分析する必要がありますが、例えば考え方の違いで、保護者にとっては「友達の家」という選択肢が一つに対し、子どもは「Aちゃんの家」「Bちゃんの家」等複数に数えるかもしれません。あるいは、「困った時に助けてくれる人がいない」というイメージが、子どもにとっては「宿題を教えてくれる人がいない」や「おやつをたくさんくれる人がいない」等、保護者のイメージとかけ離れていることも考えられるので、単純に「子どもの考えが正しい」「保護者の考えが正しい」とは言い切れませんので、今後、かなりの分析が必要だと思えます。立場の違いによって感じることも異なるようで、結果を見て私が感じたことは「保護者は、学年の違いにやや鈍く、子どもは常に同じように感じている」ということです。これは、子どもには3年間の違いが殆ど見受けられなかったからです。また、保護者は、あびっ子クラブの設置について、あびっ子クラブがある学校やあびっ子クラブのできる前、できた後の感じ方に違いが見られました。あびっ子クラブができた後は「子どもは地域の人に支えてもらっている」「子どもの良い居場所が近場にある」という項目の評価が上がっていますので、保護者には、あびっ子クラブの意義等が伝わってきていると思えます。あびっ子クラブがオープンして、ほとんどの児童が登録していますが、その子たちが毎日あびっ子クラブで過ごしているわけではありません。年に数回しか利用しない子ども達もたくさんいます。あびっ子クラブを設置しことによって、子ども達の放課後が飛びぬけて豊かになったというわけではありません。これは、受け皿の問題等もあるので、いた仕方ないと思えますが、子ども達の選択肢が増えたことには変わりありませんので、今後さらに分析を進め、子ども達の放課後を良くするために役立てていきたいと思えます。

(委員長)ただ今の報告について、何か質疑や意見はありますか。市民委員の方はいかがですか。

(委員)放課後対策運営委員会には長い間携わらせていただいています。あびっ子クラブができる前から、川村学園の研究グループの3年間の軌跡もこの場で伺っています。感無量の思いと同時にとても良い資料ができたのではないかと思います。まだ、我孫子市内にあびっ子クラブができていない頃、柴又帝釈天近くの小学校に視察に行きました。その頃は、放課後対策事業自体が何も分からず、全てが手探り状態でした。視察先でも既に学童保育があり、何故同じような子

どもの居場所を作る必要があるのか等、子どもの居場所を設置するにあたり大変なご苦労があったと言っていました。その時、そこに勤務している70代のコーディネーターの方が「みんな同じ子どもじゃないか。」と言って、周りの方やサポーターさん達を説得したそうです。この言葉がとても印象的でした。私がある時に思ったのは、これから我孫子市であびっ子クラブを立ち上げるにあたって、地域の方々がどの程度携わってくれるのかが課題だな、と思いました。視察先は東京下町の雰囲気でしたが、同じことを我孫子で・・・と、考えた時、第一小学校では昔からの住民が多いので、特に心配はしませんでした。根戸小学校で立ちあげるとなった時は、「一体どのようになってしまうのだろう」と正直思いました。しかし、今日の話聞いて、視察先の柴又と同じようになっている印象を受け、楽しく嬉しく思いました。(子ども達があびっ子クラブで作成した工作を持って)このように、地域の方々の協力と子ども達の楽しさが形になっているということは、非常に意識が高くなっていると思います。ここまでできたのは、担当者や関係者の方々のご苦労が実って来たのではないかと思います。今度は5校目ということもあり、設置のイロハも十分に勉強できたと思いますので、今後はもっと楽に早く設置していけるのではないかと思います。また、「我孫子市民活動ネットワーク」の方による、お弁当ボランティアの話がありましたが、私は「子ども総合計画」の委員も担っており、その会議の中で、市民活動ネットワークから「何かお手伝いできることはないか」と持ちかけたところ、子ども部と懇談会をすることとなったと伺っていました。その時の子ども総合計画の担当者からは、「お互いに何か出来ることを検討しましょう」という懇談会だった、との報告がありました。しかし、本日の話を聞いて、市民活動ネットワークの方と、お弁当という具体的な話が進んでおり、市民グループとの関係も構築されてきたと実感しました。

(委員長)他に何か質疑や意見はありますか。

質疑等なし

(委員長)質疑等が無いようなので、全体を通して質疑や意見はありますか。

質疑等なし

7. その他

(委員長)それでは、次回以降の運営委員会の開催日程についてです。第3回目が11月19日(月)9時30分から11時30分です。会場は本日と同じ会場(市役所分館大会議室)です。第4回目については来年2月13日(水)9時30分から11時30分です。場所は変わりまして教育委員会の大会議室となります。このような予定ですので、よろしく願いいたします。以上で、本日の運営委

員会を散会とします。ありがとうございました。

【散 会】